

宮城県における復興祈念公園基本計画

検討調査有識者委員会 資料

【前回委員会の概要】

平成26年12月25日

(1) 教訓伝承の場に関するご意見

- 【亀山委員】 宮城県の被災地の拠点としての役割をどう担っていくかというのが大事。科学的な分析結果の**伝承のあり方**、被災地の**連携のあり方**、海外や全国への**発信のあり方**などを基本計画の中でしっかりと考えていきたい。
- 【美濃部委員】 国として何を国内外に伝えないといけないのかを考えると、海外からのレスキューや金銭的な援助、色々な方々の寄附などもあって復興が進んでいるので、**感謝の気持ちを公園の中で示していく**ような機能も入れられたら良い。
- 【古藤野委員】 **「伝承の場」をハードとしてどういう形にしていくのか**を議論していく時期ではないか。
- 【松村委員】 地域の方々にはまだ癒しが必要であるが、被害の状況や遺構を消してしまうだけではなく、昔のことや、喪失してしまったもの、被災のダメージなどの記憶を喚起するという経験、ステップを踏むことで、**喪失をいまだ実感できていないことを癒す**ということも視点として大事なのではないか。

(2) 多様な主体の参画・協働の場に関するご意見

- 【牛尾委員】 県のアンケートで**60歳代以下の公園計画に対する認知度が低い**結果だったのは問題。どうすればより積極的に参画いただけるかを意識して議論を進めていかなければならない。
- 【古藤野委員】 これから未来に向けて公園を利用する方々、すなわち**地元の子供たちの声をよく聞く**ことも大切。
- 【櫻井委員代理】 まだ仮設住宅に相当多数の方が住んでいるという現実の中で検討していくため、**残された県民の方々の思いを十分反映する**ような形で進めていかなければならない。
- 【森山副委員長】 この公園についての理解を広め、より多くの方に知って頂くためには、色々な活動を通してより多くの方々に**意見を頂いたり**、木を植えて頂いたりするような活動を通して、**公園づくりに参加して頂ければ**と思う。

(3) その他基本計画で検討すべき事項に関するご意見

- 【森山副委員長】 コミュニティが無くなっていく、壊れていくということが懸念される中、**地域の方々が地元に戻れるような場所づくり**として、皆さんがどこかで参加できる、声を出せる基本計画になれば、その後の維持管理についても皆さんの協力が得られるのではないかと。
- 【皆川委員】 **公園の維持管理、費用負担、経済性の問題**など踏まえた、**持続可能な公園のあり方**についても検討していかなければならない。
- 【松村委員】 周辺市街地との連携にとどまらず、青森県南部から福島県北部まで、**被災した海岸沿いを拠点としてつないでいく**ような視点も必要なのではないかと。
- 【五十嵐委員代理】 公園はでき上がったところがゴールではなくスタートであり、でき上がった後の利用や管理を通じて、**時がたつとむしろ良くなる**というような公園にしていきたい。